



発行者 島田療育センター  
院長 木実谷 哲史

# H24年度 地域療育等支援事業 報告

地域連携情報室 市川 香織

東京都から平成9年度より受託している事業です。在宅心身障害児(者)の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられることを目的として実施しています。平成24年度の実施状況を報告します。

## 【外来療育等支援事業～療育相談～】

障害を持つかた、または発達上のご心配のあるご本人、あるいはご家族のご相談に専門職が個別に応じる事業です。保険診療を受けずとも専門職と相談ができます。H24年度は地域での身近な療育相談機関を目指して、特に外来指導を積極的にお受けしました。前年度より大幅に実施数を増やし、39件のご相談に主に医師、心理、SWが対応しました(表①)。相談対象層は1歳から小学校高学年に至るまで幅広く(表②)、多摩、八王子、町田の近隣域からのご相談が多くありました(表③)。

## 【施設支援一般指導事業】

地域でお暮らしの障害のあるかたを受け入れている通所施設の職員様のご相談に応じる事業です。現場での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。スタッフが施設へ出向く訪問相談と、施設のかたに当センターへお越しいただく来所相談の方法があります。

H24年度は、93か所の施設に対し、延べ127件実施し施設種別では、小学校、保育園、幼稚園の順に多くなっています(表④)。前年度より9件増加しました。また例年、夏前後のお申し込み～秋頃の実施が多く(図①)、同施設から複数回のご利用希望もありますが、殆どの施設で年1回程度に留めていただいているのが現状です。職種別では、心理職の対応が多く、加えてOT、STの対応も増えています(表⑤)。

## 【訪問療育等指導事業】

家庭での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫などのご相談に、専門職が家庭を訪問して応じる事業ですが、H25年度はご利用希望がありませんでした。例年、重度の障害をお持ちのかたからのご相談が主となっています。

本事業のご利用については、右下段の案内をご参照ください。

窓口は『地域連携情報室』TEL042-374-2101(直)

費用は 無料です。

どうぞお気軽にお問い合わせください。

表①療育相談の対応職種延べ数

医師	Ns	PT	OT	ST	心理	SW	(人)
25	0	1	1	7	24	31	

表②療育相談の相談者居住地域

多摩	八王子	町田	稲城	日野	その他	合計	(件)
11	15	8	2	2	1	39	

表③施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数

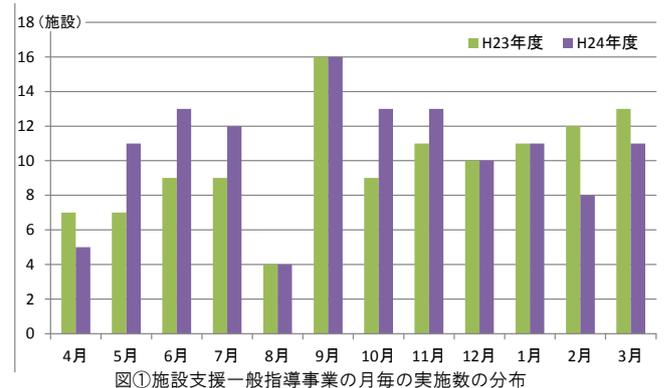
医師	Ns	PT	OT	ST	心理	SW	その他	(人)
16	4	8	48	48	58	126	9	

表④療育相談の対象児(者)年齢

0-2歳	7
3歳	6
4歳	5
5歳	6
小学生(低)	9
小学生(高)	5
中学生	0
高校生	0
その他	1
合計	39

表④施設支援一般指導事業の実施数(施設種別・市別毎) 実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩		八王子		町田		稲城		日野		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	1	1	3	4
保育園	12	16	8	11	6	6	0	0	5	5	0	0	31	38
幼稚園	4	8	6	14	6	6	1	1	0	0	0	0	17	29
小学校	8	18	15	19	6	6	2	2	4	4	0	0	35	49
中学校	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	3	3
障害児(者)	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
その他(学童含)	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2
合計	27	45	31	47	20	20	4	4	10	10	1	1	93	127



## 地域療育等支援事業のご案内

### ①外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

### ②施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

### ③訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

平成24年度 島田療育センター 公開シンポジウム

# ささえあおう 生活によりそう 福祉・医療をめざして

副院長 有本 潔



去る2月11日(月)、多摩市後援、読売光と愛の事業団後援・助成のもと平成24年度公開シンポジウムが開催されました。今回のテーマは「ささえあおう 生活によりそう福祉・医療をめざして」でした。

基調講演は東京大学先端科学技術研究センター特任講師で、小児科医であり、脳性麻痺の当事者である熊谷晋一郎先生に「あらためて自立について考える」と題し、講演していただきました。当事者として、「治るもの」として苦痛に耐えながら受けたりハビリの話しから始まり、自立とは依存しないことではなく、「色々なところに依存できる状態である」とお話しされました。後半は啓光学園総合支援部長の紫藤勇市氏

より「支えることのむずかしさ」と題し、施設職員の陥りやすい利用者との関係を中心に、NPO法人ひまつぶしdeスプーン理事の先天性多発性関節拘縮症当事者の村上健一氏から「ひまつぶし(中略)改めて地域福祉や医療について考えてみ

ました」と題し、家族・地域のニーズに応じてサービスを拡充した経緯を、都立多摩桜の丘学園特別支援コーディネーター・主幹教諭の大橋小弓氏は「地域における特別支援学校の役割」と題し、特別支援学校が地域に広がる役割を持ったことを発表していただきました。更に、当センター理学療法士小野寺早苗、杉沢英浩より「かるがも」での家族支援活動の内容と成果も発表しました。

昨年のシンポジウムは“当事者の声を聴く”ことをテーマに開催しました。そのことを受け、今回は当事者と支援者の関係をどのように構築し、どのように地域・社会に広げて共生社会を目指すかを考える会を目指しました。法律などが変化する中、目指すべきものを見出す機会になったとすれば幸いです。



熊谷晋一郎先生



## 家族支援プロジェクト ～きょうだい支援報告～

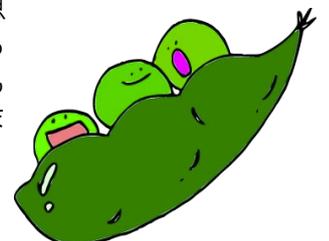
家族支援プロジェクト 湯本 和秀 武内 典恵

3/10(日)に第15回家族支援プロジェクト「きょうだい集まれ!みんなで楽しいレクリエーション」を開催しました。当日はデイケア棟2階で保護者対象「体験談&交流会」を、厚生棟できょうだいのためのレクリエーションを行いました。

体験談では、肢体不自由のお兄さんのいる女性と、自閉症の弟さんのいる女性のお二人の演者が、写真等を挟みながら「それぞれの歩みから感じていたこと」「きょうだいとして抱く感情」「今、自分の家族を持つようになって思うこと」「これからのこと」などを率直にお話くださいました。引き続き交流会では、2グループに分かれそれぞれ演者とファシリテーターを交えて、「きょうだい同士の関係」、「親としての関わり方」、「きょうだいの将来」等について悩みや困り事を共有し、考え方や接し方を話し合いました。参加された保護者の方からは、「同じような悩みを持つ人と話すことができてよかった」「具体的なアドバイスがありがたかった」「演者のお二人は、思ったよりポジティブにきょうだいの存在を捉えていることが印象的だった」「日頃から障がいのあるこどもに手がか

かり、きょうだいを気にしつつも後回しだったので、向き合う良い機会になった」などの感想をいただきました。

きょうだいのレクリエーションは、7歳から13歳の12人のお子さんの参加があり、小学校低学年グループと高学年グループ2つに分かれて自己紹介、人間知恵の輪や、ボールゲーム、お菓子バイキングとお茶会などを楽しみました。目玉はなんといっても大画面でWiiです。これがお目当て(?)のお子さんもおられ、家庭では経験できない迫力を堪能しました。はじめは緊張していたお子さんたちも帰る頃にはお互い親しくなり、メールアドレスを交換する様子も見られました。とにかく楽しもう!をコンセプトに集まったきょうだいたちが、気持ちや思いをお互いに分かち合えるような活動を、これからも提供していきたいと思えます。また集まろうね!



# 多摩市保育協議会への講師派遣

多摩市保育協議会 会長 福島 真 (かしのき保育園 園長)

多摩市には現在、私立認可保育園18園と公立保育園2園が設置され、多摩市に在住する乳幼児を保育しています。各保育園共に質の高い保育の提供に努めておりますが、私立保育園園長会と公立保育園園長は「多摩市保育協議会」を設立し、情報の共有や研修の充実等を通してさらなる保育の向上を目指しております。研修という点では、以前より島田療育センターのご協力をいただき見学をさせていただいておりました。しかし見学するだけではシステムは分かっても実際に行われている対応や工夫に対する理解にまでは及ばず、島田療育センターの持つ専門知識も共有させていただきたいという思いから、平成24年度は言語聴覚士や作業療法士、心理の方から、子どもへの支援・対応法について具体的に学ぶ機会を持たせていただきました。

研修の中では島田療育センターの訓練で実際に使用している教材を見せていただいたり、子どもたちの困り感に気づけるような疑似体験をさせていただいたりしたのですが、理論だけでなく現場での具体的な実践

体験を通して、参加者からは「子どもたちの気持ちに共感できた」「子どもの不自由さを実感した」という感想が聞かれました。また、「見せていただいた教材を保育の中で応用して取り入れた」「体幹を育む積み木を使った遊びを保育園でも実践してみた」「他の職員にも、2枚重ねた軍手をはめて作業する疑似体験を体験してもらい、手先の不器用な子の気持ちを理解してもらった」など、実際の保育に取り入れたという意見も多く聞かれました。今回の研修により、参加者が困っている子どもの立場に立つ視点をもてたということとはとても大きな変化でした。

今後も多摩市の保育園と島田療育センターとの密接な関係が築かれ、各保育園の専門性を高めた職員がしっかりと見立てのもと子どもに支援していけるようになればと思っています。そして、それが多摩市の保育のさらなる向上につながると思っています。



## 連載「行動はメッセージ～気づいてよ、僕たちの気持ち～」

### その2 不適切な行動と結果の関係

人の行動は、「きっかけ→行動→結果」という3つの連続した項から成り立っていること、子どもがある「行動」をした時に、「行動」の後に随伴される「結果」が子どもにとって良いものであればその「行動」は強化されて増えていくこと、反対に、「結果」が子どもにとって嫌なものであれば、その行動は減少していくことを前回お話ししたと思います。

今回は、ABC分析において、子どもの示す不適切な「行動」と「結果」をどうとらえていけばよいか、お話ししたいと思います。本来は、「きっかけ→子どもの正しい行動→子どもにとって良い結果」となれば良いのですが、なかなかそうはいきません。なぜかという、子どもたちだけでなく、人はみな、正しい「行動」だけで良い「結果」を得ているわけではなく、不適切な「行動」で手っ取り早く良い「結果」を得ていることが多いからなのです。

学校の教室での例を挙げてみましょう。教室で先生に問題を出された時に、席を立てて挙手をし、「ハイ、ハイ、ハイ!」と大きな声を上げる子どもって、クラスに必ず何人かいませんか? 実は私もそうでした。これは、先生に当てられたいからであることは誰でもお分かりであると思います。この時に、「一度当ててあげたら、その後は静かにしてくれるかな」と思い、ついついその子を当ててしまった…そんな

経験をお持ちの先生も多いのではないのでしょうか。大人の都合で、優しい気持ちで、その場しのぎで、ついつい不適切な行動での要求を満たしてしまうことって、先生だけでなく、皆さん経験があると思います。気持ちを分かってあげるのは、もちろん大切なのですが、実はこれがのちのち大変になったりするので、「席を立てて大きな声を出せば、先生はおれを当ててくれる」というパターンが成立すると、その子どもは次も同じパターンを示すようになります。これを我々は、誤った行動(不適切な行動)を学んだという意味で、誤学習と呼んでいます。つまり、子どもの不適切な「行動」の後に、子どもが喜ぶ「結果」を与えてしまっているわけなのです。子どもが不適切な「行動」を示した時には、私たちは子どもが喜ぶ「結果」を与えないようにしなければいけません。

このように、「行動」の後の「結果」に注目することで、子どもの不適切な「行動」をかなりの確率で減らすことができます。ではこの時、いったい先生はどう対応すれば良かったのでしょうか。その答えは、また次回にお話ししたいと思います。

(心理判定員 山本 秀二)



# お知らせ

発達支援センター

## セブクローバー

今年度、発達支援センターが『セブクローバー』として新たに生まれ変わります。発達検査や各種個別相談（心理、ST、OT）を利用料を自己負担していただいております。（医師の診察を経ずにご利用いただくシステムです。）その中で以下の事業が、新規事業として加わりました。是非ご利用ください。

### ●G-トレーニング

体育が苦手、動きがぎこちないなど、運動にまつわる不器用さや困り感のあるお子さんを対象に、体操やマット運動などの基礎的な運動を中心に指導を行います。

### ●目の体操教室～ビジョントレーニング～

視力はいいはずなのに、字がなかなか覚えられない、教科書の文字や行を読み飛ばしてしまう…。こんな悩みをお持ちのお子さんに、“物の見え方・捉え方”の評価を行い、見え方の悩みを改善するための指導を行います。

### ●ティーチャートレーニング

近隣地域の小学校の教員や支援員の先生方を対象に、発達障害など特別なニーズのあるお子さんへの具体的な支援方法を検討する連続講座を開催します。

今年度は7月30日から8月1日の3日間に開催予定です。

※詳細はお問い合わせください。

地域連携情報室 042-374-2101

## ネスカフェバリスタのご紹介

情報資料室くつろぎに、CMで話題の「ネスカフェバリスタ」と補充用のコーヒーが寄付されました。くつろぎをご利用の方に無料でコーヒーを提供しております。ご寄付くださったネスレ日本株式会社様に感謝申し上げます。



## 就学情報交換会(多摩)

6/9 島田療育センター厚生棟

(日) 10:00~12:45

参加費：1家族 1000円

関係機関の方 ひとり 1000円

参加ご希望の方は当センターのホームページにある申込フォームよりお申込ください。FAXでのお申込みも受け付けております。申し込み締め切りは、6/3(月)17:45までとさせていただきます。

※お問い合わせは地域連携情報室

TEL042-374-2101(直)



## ひだまり&かるがも

### ひだまり・かるがもとは…

ご家庭や園、学校でのお子さんのことや将来のこと、地域の社会資源など、みなでお茶しながら語っています。お子さま連れでもOKです。スタッフと地域の親の会の先輩お母さんがお待ちしております。「ひだまり」は発達が気になるお子さんをお持ちの保護者対象、「かるがも」は肢体不自由のお子さんの保護者対象です。どうぞお気軽にお立ち寄りください。ひだまりは毎月1回、かるがもは不定期。

参加費100円、場所は当センター3階研修室が中心です。詳しくはセンター内ポスターをご覧ください。

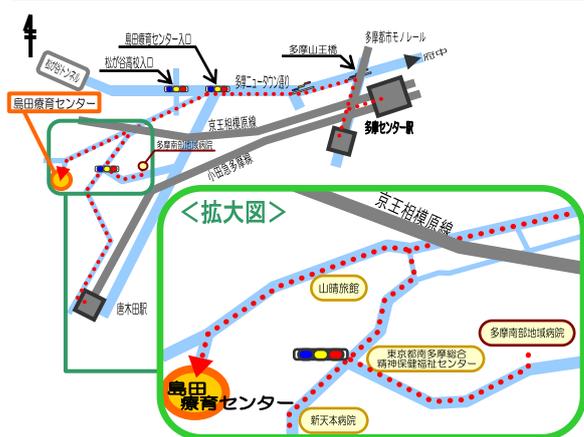
支援部 武内 042-374-2101



## 編集後記

紫外線が気になる季節になってきましたね。紫外線には3種類あり、A紫外線が1年の中で、最も多いのは5月だそうです。今から対策が必要ですが、つつい日焼け止めクリームを塗るのを忘れちゃいけませんか？手軽にできる対策の一つとして、ハーブティーのローズヒップがいいそうですよ。シミ予防としては、コーヒーも効果があるそうです。ゴールデンウィークも終わり、お疲れ気味の方は、ハーブティーやコーヒーを飲んで、ゆっくりしてはいかがでしょうか？(林)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会  
島田療育センター 支援部 地域連携情報室  
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1  
電話：042-374-2071(代表)  
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp  
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉  
多摩センター駅下車  
→約20分

〈バス〉  
多摩センター駅  
バスターミナル12番  
乗り場  
「南部地域病院」行き  
→約7分  
終点「南部地域病院」  
下車→徒歩5分